資料 放-22-1

情報通信審議会　情報通信技術分科会　ITU 部会

放送業務委員会（第 21 回）議事概要（案）

日時：平成 28 年３月 11 日（金）14:00～15:30
場所：総務省地下２階　第１、２，３会議室

出席者：
　都竹主査（名城大学）
　伊丹主査代理（東京理科大学）
　大寺専門委員（民放連）、川口専門委員（テレビ朝日）、小島専門委員（フジテレビ）、下地専門委員（パナソニック）、滝嶋専門委員（KDDI 研究所）、西田専門委員（NHK 技研）、春口専門委員（NHK）、日野専門委員（TBS）
関係者：
　大出氏（NHK 技研）、日下部氏（NHK 技研）、津田氏（NHK）、成清氏（NHK 技研）、根岸氏（NHK）
事務局：
　総務省 情報流通行政局 放送技術課
　　久恒 課長、遠藤 課長補佐、五十嵐 国際係長、原 官

配布資料：

資料 放-21-1　　：放送業務委員会（第 20 回）議事概要（案）
資料 放-21-2　　：2016 年１月 ITU-R SG6 関連会合結果報告書
資料 放-21-2-1　：WP6A 会合報告書
資料 放-21-2-2　：WP6B 会合報告書
資料 放-21-2-3　：WP6C 会合報告書
資料 放-21-2-4　：SG6 会合報告書
資料 放-21-3　　：今後の検討スケジュール（案）
参考資料1　　：放送業務委員会構成員名簿

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局から配布資料の確認を行った。

2. 前回議事概要の確認

資料 放-21-1「放送業務委員会（第 20 回）議事概要（案)」について、修正があれば別途事務局へ連絡することとなった。

3. 2016 年１月 ITU-R SG6 関連会合の結果について

資料 放-21-2「2016 年１月 ITU-R SG6 関連会合報告書」に基づき、各会合について説明員から説明がなされた。

3.1. WP6A 会合の結果について

資料 放-21-2-1「WP6A 会合報告書」に基づき、WP6A 会合について成清氏(NHK 技研)から説明がなされた。質疑は以下のとおり。

○：スペクトラムマスクの文書は SG6 が担当している勧告 ITU-R BT.1206 と SG1 担当の勧告 SM.1541 の２つがあるとのこと、両者の勧告の規定することの違いは何か。
○：SM.1541 はジェネリック、BT.1206 はスペシフィックな部分を記載としていたと理解していたが、今回、EBU が切分けの主旨と違うものを主張した。追加自体は何ら問題ないとされた。
○：レポート BT.2252 へのシステム C の追記について検討状況如何。
○：システム C の追記については検討を進める。
○：第二世代地デジ方式の評価方法について、基本的な電測についてのものと承知していたが、前会合では議論の末、議長レポートとして付されたのは何故か。
○：中国の入力した内容について検討が不十分との指摘があったと記憶している。
○：ラポータとコレスポンデンスの違いは何か。
○：ラポータは対面での集まりで、コレスポンデンスはメールベースのやりとりを行うこととなっている。
○：ラポータでもメールでのやりとりを行っていると承知。
○：開催期間で無ければメールのやりとりも行っている。

3.2. WP6B 会合の結果について

資料 放-21-2-2「WP6B 会合報告書」に基づき、WP6B 会合について大出氏(NHK 技研)から説明がなされた。質疑は以下のとおり。

○：本会合においては SONY の P. Dare 氏が臨時議長となった。
○：CAS の記載で、ドイツから MMT の追加と理解と表明されたとのことだが、意図如何。
○：日本から寄与した CAS 自体は MMT にも従来のものにも適応できる。今までの勧告は第一世代 CAS に対応する部分しか記載がなかったための発言と理解。
○：入れるべきではない、という意味ではないか。
○：然り。

3.3. WP6C 会合の結果について

資料 放-21-2-3「WP6C 会合報告書」に基づき、WP6C 会合について、音響部分については大出氏(NHK 技研)から、映像部分については日下部氏（NHK 技研）説明がなされた。質疑は以下のとおり。

○：SG6 に提出された件数は９件であること、「色差」が「式差」となっているため修正乞う。
○：ルミナンスとインテンシティはどちらも光の強さを表現しているところ、英語の表現が違う意図如何。
○：ルミナンスは特性に合わせて、RGB を LMS（長波長帯、中波長帯、短波長帯）に変換しており、インテンシティは変換していない。
○：和訳が混乱を招いているのでは。
○：我が国では非定輝度方式しかなく、国内で使われることはないために和訳の検討が不十分の可能性はある。Y がデフォルトなので $Y'C_bC_r$ を使うのが大きな流れになる。実質上１つの方式しかない。

3.4. SG6 会合の結果について

資料 放-21-2-4「SG6 会合報告書」に基づき、SG6 会合について津田氏(NHK)から説明がなされた。質疑は以下のとおり。

○：先程の HDR-TV の新勧告案については、ITU での採択手続きが開始された。ノーマルプロシージャなので、採択手続き後、承認手続に入る。2/25～4/25 が採択の照会期間、そこから１ヶ月以内に承認手続、５月中旬か末頃から２ヶ月間照会し、主管庁からの回答のうち 70%が賛成なら承認。承認まで完了するのは７月中旬頃、となる予定。

○：ノーマルプロシージャはかなり長くなるところ、何故その手続きが取られたのか。
○：今まで議論が４年間行われており、フランス、オランダも懸念を表明したことから、丁寧に承認手続をとることとなった。
○：採択は100%か。
○：基本は承認されると承知。反対の際はその理由を回答するので、コメントがあれば調整を行うこととなる。特段コメントがなければ承認される。
○：過去には差戻しになった例もあるため、予断は禁物。WP6Aの電力線通信（PLT）について日本も協力できるのか。
○：今のところ日本としての協力は考えていない。これは主にヨーロッパで問題になっており、フランス、ドイツ等が中心となって議論している。
○：実際の問題はヨーロッパかもしれないが、電力がどうなっているかはヨーロッパだけの問題では無く、日本の現状について情報提供しても良いのでは。
○：我が国の現状については測定をすればできるが、MPX電力がどういうものかが不明であり引き続き注視が必要。
○：MPX電力については初耳。
○：前研究会期からRGを作って検討しているが、まだそもそもMPX電力とは何か、ということが不明確な状態。
○：日本が対応できるのであれば、SG6議長から要望もあったので、日本から対応することも検討頂きたい。
○：何が求められているか深掘りは必要だが、情報は注視する。
○：全運営委員に周知の要望があったので、日本も他人事としないことが必要。

○：SG6議長として西田専門委員に今回会合についてまとめ頂きたい。
○；いくつかかなり難しい課題もあったが、結果的には成功裏に終了した。100%ではないが、日本としても、世界としてもある程度の結果が得られ、それほど大きくもめる問題もなかった。一部、会合中に集まって調整頂いたものもあるが、今回は基本的に問題なく終了できた。

4. 今後のスケジュールについて

資料 放-21-3「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、事務局から説明がなされた。

以上